

平成28年7月9日

長峰地区のiバスの運行経路について

稲城市役所
都市建設部管理課

長峰地区の考え

現行のBコースは、長峰中央通りを西向きに運行しており、南多摩駅から長峰地区への便が確保されている。しかしながら、第Ⅱ期見直しでは、現行のBコースがなくなる予定であり、現在、南多摩駅からの乗車し長峰中央通りの『長峰』『長峰小学校』バス停を利用している住民の利便性が損なわれることとなる。このため、長峰地区としては、南多摩駅からの利便性を確保するため、(仮称)はるひ野路線の若葉台方面への運行は長峰中央通りを運行して欲しいと考えている。

※現在はBコースが運行しているが、若葉台駅へは運行していない。

また、現行のCコースの若葉台駅に向かう経路は、尾根幹線道路を運行している。

第Ⅰ期見直し以前の路線は、若葉台駅に向かう経路はすべて尾根幹線道路を運行していた。

路線バス事業者の考え

一方、路線バス事業者からは、長峰地区から若葉台駅へご利用される方が多く、路線バスが運行する長峰中央通りをiバスが若葉台方面へ運行することとなると、若葉台駅への路線バス利用者が、iバスを利用してしまふことが心配される。

この影響により、路線バスの利用者が減少すると路線バス事業の見直しを検討せざるを得ない状況となり、減便となる可能性がある。

また、平成28年6月1日より若葉台駅と南多摩駅を結ぶ路線『若02』が新設され、朝夕の通勤時間帯で平日5往復の運行を開始したところである。この『若02』の今後見直し(増便など)の検討へも影響があり、今後の見直し検討の際、課題となってくる。

このため、長峰地区から若葉台方面への運行は、長峰中央通りではなく、尾根幹線道路を運行して欲しいとの考えである。

※この影響については長峰地区だけでなく、向陽台地区及び若葉台地区へも関連して影響するものです。

※一台置きに長峰中央通りと尾根幹線を運行することも提案しましたが、

- ◆利用者に分かりにくい
 - ◆運転士が間違えて運行する原因になる。
 - ◆労働組合との合意が難しい
- などの理由により、困難との回答である。

地域公共交通会議での主な意見

◆東京バス協会から、コミュニティバスは路線バスが運行できない区間を運行するもので、コミュニティバスが路線バスと競合し、路線バスが撤退したケースもあり、路線バスとの役割分担が必要である。

◆地域公共交通会議会長からは、長峰中央通りの2つ(長峰小学校・長峰)のバス停へは、隣接する『総合体育館』『長峰三丁目』バス停からもそう遠くは無いのではないかと。また、長峰中央通りは路線バスが運行しており、稲城駅からの路線バスに乗り換えて利用することも可能であり、路線バスへの影響を考慮すると、iバスの若葉台方面への運行は、尾根幹線道路を運行する方が望ましいと考える。なお、長峰中央通りを運行する路線バスは昼間でも1時間に3便運行していることを考えると概ね20分以内の乗り換えとなり、乗り換えへの抵抗も比較的少ないものと考えられる。

◆長峰地区としては、これらの状況を踏まえた上でも、南多摩駅から長峰中央通りへの路線バスは、朝夕の通勤時間帯のみで、その他の時間帯は無いため、利便性を確保するためにはiバスが運行する必要があると考える。

なお、路線バスが1時間に1便運行することができる状況であれば、若葉台方面へのiバスは尾根幹線道路を運行することは問題ないと考えているので、今後の第Ⅲ期の見直しに合わせ、路線バスの運行状況を踏まえ、検討することとし、今回の見直しでは、長峰中央通りを運行するべきであると考えている。

※長峰地区のiバスの運行経路については、今後、長峰地区と路線バス事業者、稲城市とで協議し決定することとなった。